

平成26年度 全国学力・学習状況調査

教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立信夫第一小学校長

平成26年4月22日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語と算数の2教科について主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語A	72.9%				○	
国語B	55.5%	○				
算数A	78.1%					○
算数B	58.2%				○	

【国語A:本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	72.4%	○				
書くこと	72.2%					○
読むこと	68.5%	○				
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.7%					○

【考察】

- 複数の事柄を並列の関係で書く問題は、全国平均正答率を上回っています。文と文のつながりを意識させながら文章を書く指導をしてきた成果と考えられるので、今後も継続して指導していきます。
- 話し合いにおける司会者の役割について課題があります。話し合いを行う際には、目的や意図を明確にさせ、出された意見を観点に沿って図や表に整理していく活動を重視していきます。図や表に整理していく活動は、国語科の授業だけでなく、各教科等の話し合いの際にも活用していきます。
- 物語文の情景描写を丁寧に読み取ったり登場人物の相互関係を捉えたりすることに課題があります。授業では、経験したことや想像したことをもとに、物語を創作する言語活動を位置付け、物語の表現方法やその効果を考えさせていく活動を重視していきます。
- 言葉の意味を考えた漢字学習や辞書引き、課題作文の指導などについては効果的ですので、今後も継続して行っていきます。

【国語B:本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	51.2%	○				
書くこと	34.4%					○
読むこと	57.3%	○				
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.8%	○				

【考察】

- 自分の立場で意見や考えを書いたりまとめたりする問題においては、全国平均正答率を上回っています。ノート指導を含め、記述力の育成を重視してきた成果であると考えられますので、今後も、書く活動を授業の中に意図的・計画的に位置付けるとともに、決められた語句を使って書かせるなど、書く活動を工夫し、記述力がさらに高まるような指導を継続していきます。
- 二つの詩を読み比べる問題に課題があります。連の構成や表現技法に着目させながら内容や表現の工夫について考えさせたり、それらについて自分の考えをノートに書かせたりする活動を重視し、詩を読み味わうことができるように指導していきます。
- 話すこと・聞くことの領域に課題があります。話し手の意図や観点を意識させるとともに、自分の考えの立場や見解を分類・整理させる活動を重視した指導をしていきます。
- 読むことの領域に課題があります。他の文献を選んで引用したり複数の事例を比べたりなど、課題解決的な学習展開を一層重視し、指導していきます。

【算数A:本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	81.8%					○
量と測定	74.8%					○
図形	71.8%					○
数量関係	81.3%					○

【考 察】

- 全領域にわたって、全国平均正答率を上回っています。これは、授業や家庭学習において、定着率の低い問題を繰り返し取り組ませてきた成果と考えられますので、今後も定着確認シート等を活用しながら継続して取り組んでいきます。
- 整数や小数の四則計算、□などの記号を用いて式に表すことなど、全国平均正答率を上回っています。これまでの授業において、数学的な見方や考え方も含めた適用問題の確実な実施や個別指導等の成果であると思われるので、今後も継続して取り組んでいきます。
- 分数の大きさについての理解に課題があります。今後は具体物や図、数直線などを用いるなど、分数の大きさについて実感を伴って理解できるような授業を展開していきます。
- 計算指導においては、計算の意味を重視し、確実に計算できるように反復練習を行うとともに、知識・技能を活用して問題を解決する場を多く取り入れるなど、指導の充実を図っていきます。

【算数B:本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	61.3%					○
量と測定	56.5%	○				
図形	65.7%					○
数量関係	56.2%					○

【考 察】

- 示された情報を解釈し、「基準量」「比較量」「割合」の関係を的確に捉えて言葉や式で説明する問題で、全国平均正答率を上回っています。算数科における言語活動の充実をめざし、数学的な考え方を明確にした上で、自分の考えをノートに書いたり、伝え合ったりという活動を位置付けてきた成果であると考えられますので、今後も継続して取り組んでいきます。
- 目的に応じて、表やグラフを選択する問題で全国平均正答率を上回っています。今後も、円グラフや折れ線グラフなど、様々なグラフが持つ特徴について考えたり、実際にグラフに表したりする活動を重視するとともに、各教科等との関連を図った指導を行っていきます。
- 示された情報を基に、条件に合う時間を求めるなど、量と測定の領域に課題があります。時間や時刻においては、日常生活との関連を重視し、条件に合わせて時刻や時間を求める大切さを感じさせるとともに、図と式を関連付けて考える場を多く取り入れ、さらに個別指導の充実を図っていきます。
- 問題の解決に必要な情報を選択し、解決の方法や判断の理由を説明する問題に課題があります。授業においては、根拠の事実を関連付けて説明させる場を設けるだけでなく、判断の根拠となる事実が不足している説明を基に、よりよい表現に洗練していく場も取り入れた指導を行っていきます。